

2025 年日本国際博覧会
事後調査計画書

令和 4 年 6 月

公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会

目 次

1. 事業者の氏名及び住所.....	1
2. 対象事業の名称.....	1
3. 対象事業の内容.....	1
3.1 事業計画地の位置.....	1
3.2 施設計画の概要.....	3
3.3 工事計画.....	11
4. 環境保全のための措置.....	14
5. 事後調査の方法.....	18
5.1 調査の目的.....	18
5.2 調査計画.....	18
6. 事後調査報告書の提出時期.....	19

1. 事業者の氏名及び住所

名 称：公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会

代表者：会長 十倉雅和

所在地：大阪市住之江区南港北一丁目 14 番 16 号

2. 対象事業の名称

2025 年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）

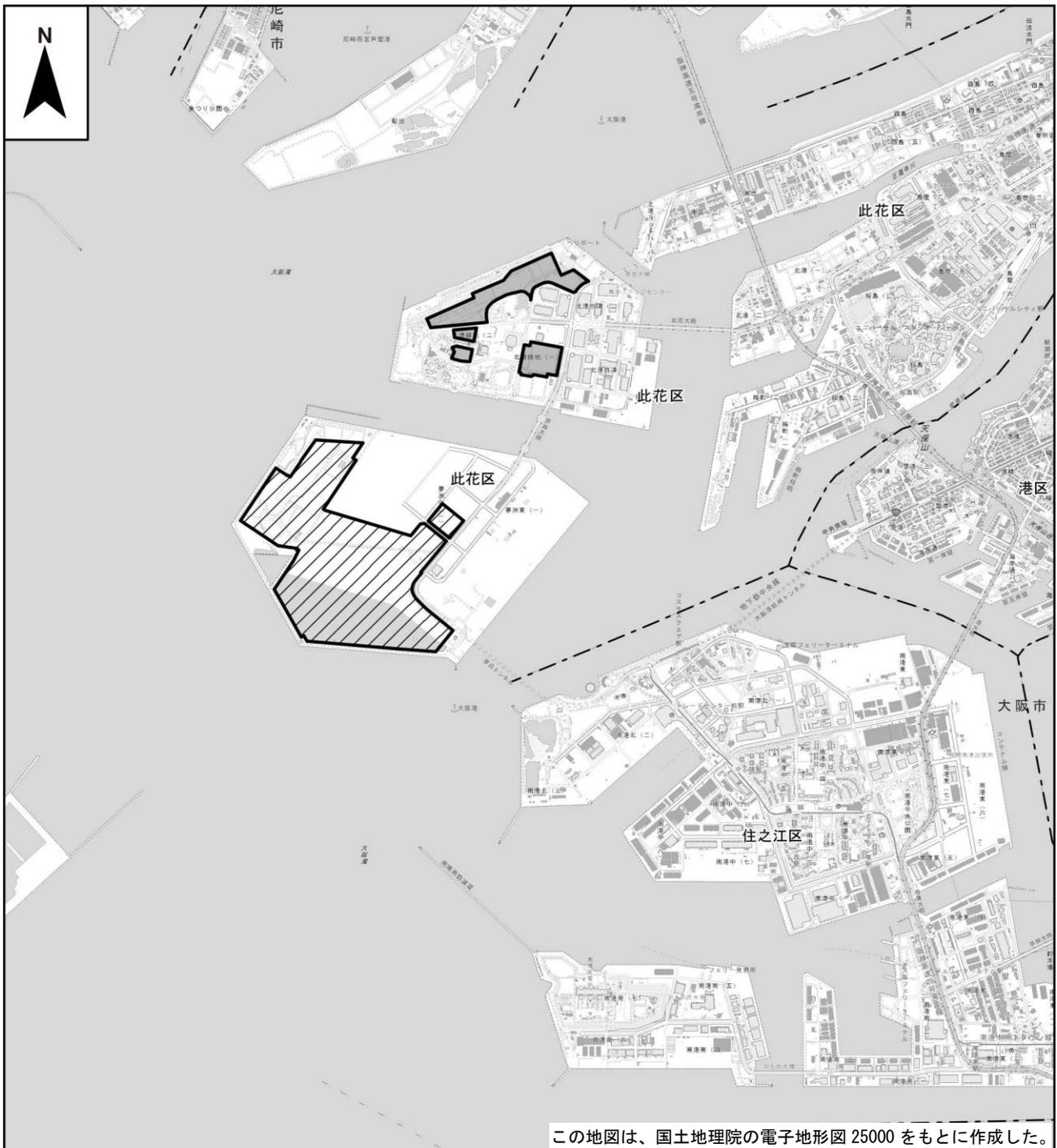
3. 対象事業の内容

3.1 事業計画地の位置

会場予定地及び（仮称）舞洲駐車場予定地の位置図は、図 3.1(1) 及び(2) に示すとおりである。会場予定地は、大阪市の臨海部にある埋立地である大阪市此花区夢洲に位置している。また、（仮称）舞洲駐車場予定地は、夢洲に隣接する埋立地である大阪市此花区舞洲に位置している。



図 3.1(1) 事業計画地の位置図（概要）



凡例

-  会場予定地
-  (仮称) 舞洲駐車場予定地
-  市区界

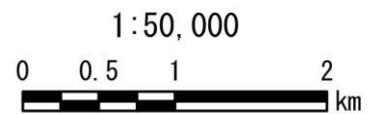


図 3.1(2) 事業計画地の位置図 (詳細)

3.2 施設計画の概要

(1) 事業の目的及び内容

事業の目的及び内容は表 3.1 に示すとおりである。

表 3.1 事業の目的及び内容

目的	本事業は、2025 年に、大阪府大阪市において、国際博覧会条約に基づく国際博覧会を開催するものである。 大阪・関西万博のテーマは、『いのち輝く未来社会のデザイン』である。「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマは、人間一人一人が、自らの望む生き方を考え、それぞれの可能性を最大限に発揮できるようにするとともに、こうした生き方を支える持続可能な社会を、国際社会が共創していくことを推し進めるものである。 言い換えれば、大阪・関西万博は、格差や対立の拡大といった新たな社会課題や、AI やバイオテクノロジー等の科学技術の発展、その結果としての長寿命化といった変化に直面する中で、参加者一人一人に対し、自らにとって「幸福な生き方とは何か」を正面から問う、初めての万博になる。 近年、人々の価値観や生き方がますます多様化するとともに、技術革新によって誰もがこれまで想像しえなかった量の情報にアクセスし、やりとりを行うことが可能となった。このような進展を踏まえ、大阪・関西万博では、世界の叡智とベストプラクティスを大阪・関西地域に集約し、多様な価値観を踏まえた上での諸課題の解決策を提示していく。
位置	此花区夢洲（会場予定地）、此花区舞洲（(仮称) 舞洲駐車場予定地）
面積	会場予定地：約 159ha、(仮称) 舞洲駐車場予定地：約 31ha（約 9,000 台想定）
開催期間（予定）	2025 年 4 月 13 日から 2025 年 10 月 13 日まで
開催時間（予定）	午前 9 時から午後 10 時まで
想定入場者数	約 2,820 万人
会場エリア	パビリオンワールド、グリーンワールド、ウォーターワールド
施設計画	参加国・企業パビリオン、日本館、自治体館、テーマ館、催事ホール、営業施設（物販及び飲食店舗）、エントランス施設、管理施設 等
その他施設	広場、インフラ整備（電気、ガス、通信、上水、雨水、汚水、空調用冷水）、緑地 等
輸送計画	大阪 Metro 中央線（北港テクノポート線）が全体の約 41%、空港や主要駅からのシャトルバスが約 22%、そのほかの自家用車・団体バス・タクシー等が約 37%の分担率を想定

(2) 会場計画

① 会場デザインコンセプト

会場は、四方を海に囲まれたロケーションを活かし、世界とつながる「海」と「空」が印象強く感じられるデザインとする。円環状の主動線を設け、主動線につながるように離散的にパビリオンや広場を配置することで、誘致の時から「非中心・離散」の理念を踏襲しつつ「つながり」を重ね合わせた「多様でありながら、ひとつ」を象徴する会場を創出し、無数の異なるものたちが一つの世界を共有しているという感覚を来場者が体感することが出来るような場を目指す。

② 会場エリア

会場全体の面積は約 159ha であり、会場内は大きく 3 つのエリア（パビリオンワールド、グリーンワールド、ウォーターワールド）に区分する。

パビリオンワールドは、会場の中央部に位置し、パビリオン等の施設が集まるにぎわいのエリアである。東と西の 2 か所にエントランスゲートを設置する。主要施設としては参加国・企業・国際機関のパビリオン、日本館、自治体館、テーマ館、飲食・物販施設、管理施設、各種供給施

設がある。

グリーンワールドは、密度の高いパビリオンワールドと対照的に、開放的で緑あふれる空間とし、万博体験の幅を広げる役割を持つ。屋外イベント広場や、ベストプラクティスエリア、先進的なモビリティを体験するエリア等が配置される。西向きに瀬戸内の海を直接望むことができる場所でもあり、飲食・物販施設を適切に配置することによって海の上の万博会場を満喫することができる。なお、ベストプラクティスエリアでは、「TEAM EXPO 2025」プログラムにより集まった「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現するための活動等のうち、特に優れた取組について「ベストプラクティス」として位置付け、会場内に設けた本エリアで展示・展開する。

ウォーターワールドは、海の上の万博会場を象徴する場所である。堤防によって作られた内海をさらに大屋根（リング）によって囲い取ることで「海の広場」を作り出す。この三日月状の水辺空間は水上イベントを始めとした親水空間での様々な活動に供される。内海に張り出した大屋根（リング）の上は展望歩廊であり、「海の広場」や会場全体を見下ろせる場所であり、南西方向に広がる瀬戸内の海を見渡せる場所ともなる。

③ 主要な施設

会場内には、参加国・企業パビリオン、テーマ館、催事ホール、エントランス施設、管理施設、インフラ等供給施設、日本館、自治体館、営業施設（物販及び飲食店舗）等の建築物を整備する。このうち、パビリオン（当協会が整備するものを除く）は参加国や企業等の出展者が、日本館は日本政府が、自治体館は自治体が計画し整備する。その他の建築物は当協会が整備する。

会場配置計画に示すとおり、大部分の建築物はパビリオンワールドに、一部の建物はグリーンワールドに整備する。原則として建物は会期終了後に敷地から撤去される予定であり、比較的簡易な仮設構造とする計画である。

会場の修景と良好な環境維持のため、当協会において、ガイドラインを策定することを予定している。